

平成 24 年 3 月 21 日

【照会先】

大臣官房統計情報部

社会統計課縦断調査室

室 長 福元 俊成(内線 7571)

室長補佐 相原 陽二(内線 7593)

成年者調査係 (内線 7592)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2322

第9回「21世紀成年者縦断調査(国民の生活に関する継続調査)」の結果

厚生労働省では、このほど、第9回「21世紀成年者縦断調査(国民の生活に関する継続調査)」の結果を取りまとめましたので公表します。

「21世紀成年者縦断調査」は、平成 14 年 10 月末に 20～34 歳であった全国の男女(およびその配偶者)に対して、仕事の有無、就業形態、子ども観などを継続的に調査し、少子化対策など厚生労働行政施策のための基礎資料を得ることを目的としています。平成 14 年度から毎年実施しており、第9回目は平成 22 年 11 月 3 日に調査を実施し、第1回から第9回まで回答を得た 13,063 人について集計しました。対象者の年齢は 28～42 歳となっています。

【調査結果のポイント】

※詳細は、別添概況をご覧ください。

○初職別にみた結婚経験の有無

男女共に、初めて就いた仕事が「正規の職員・従業員」であった人の方が、初職が「非正規」であった人に比べ、今回調査時までには結婚を経験している割合が高くなっている。(5頁 表3)

	〈男性〉	〈女性〉
「初職が正規」	結婚経験あり 66.7%	74.7%
「初職が非正規」	” 40.5%	59.4%

○結婚後の女性の就業継続の状況

結婚前に仕事に就いていて、当時の仕事を「結婚した後も続ける」と考えていた女性のうち、結婚後も同じ仕事を継続している割合は 72.0%。中でも、結婚前が「正規」であった人では 81.6% と高くなっている。(9頁 表7)

○女性の育児休業制度利用後の就業の状況

育児休業制度利用 3 年後に仕事に就いている人は 88.0%。中でも、育児休業制度利用時に「正規」であった場合、その割合は、89.5% と高くなっている。(10頁 表8)

○結婚・出生の状況別にみた子ども観の変化

第1回調査(20～34歳)時に独身で、今回調査時までには結婚や子どもの誕生があった人は、子どもを持つことに対して「子どもとのふれあいが楽しい」「子育てを通じて自分の友人が増える」など肯定的に感じる割合が増加している。特に出産を経験した女性では顕著である。

(12頁 図10、13頁 図11)